

6 障害者の人権について

(1) 合理的配慮についての考え方

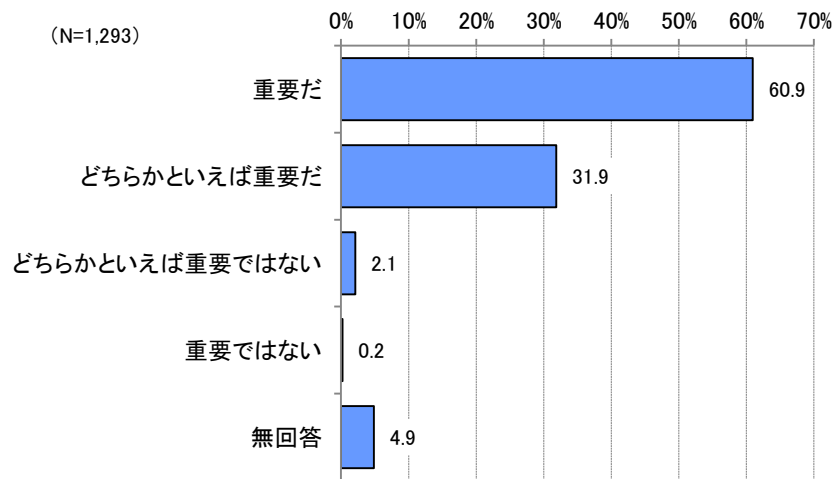
問 24 障害者一人ひとりが社会活動に参加したり、能力を最大限に発揮できたりするために、環境の整備や必要に応じた配慮を行う「合理的配慮」の考え方について、あなたはどのように思いますか。(あてはまる番号1つに○)

(例) 目の見えない人に、点字の会議資料を用意する。

耳の聞こえない人に、筆談で面接をする。

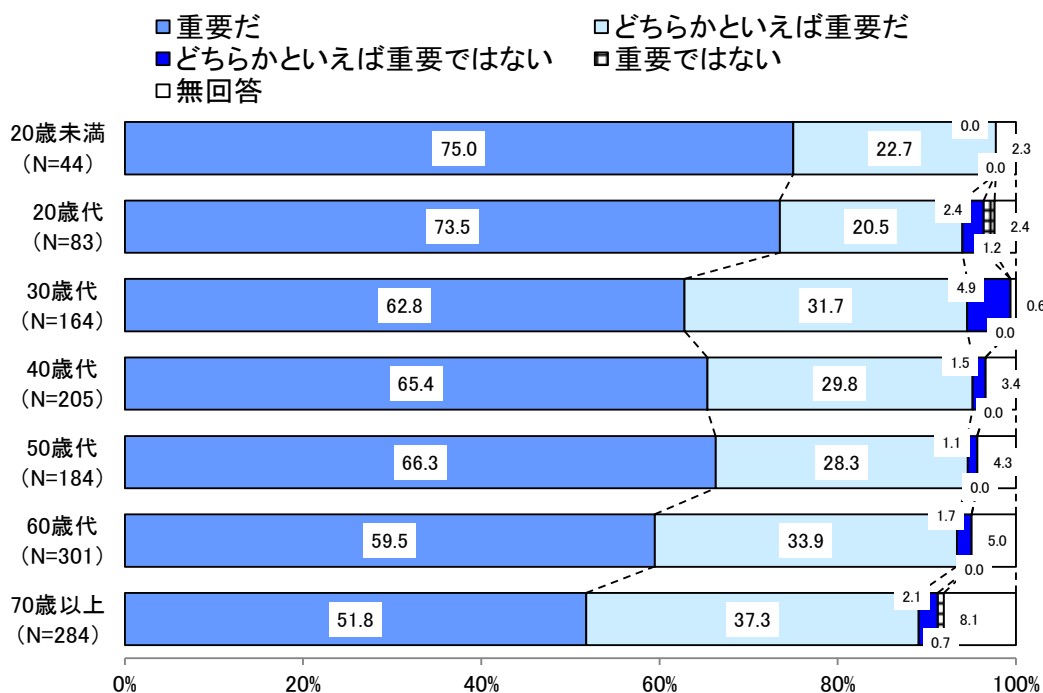
注意や集中が困難な人に、集中力が持続する時間に合わせて休憩時間を設ける。など

【図表 6-1 合理的配慮についての考え方】



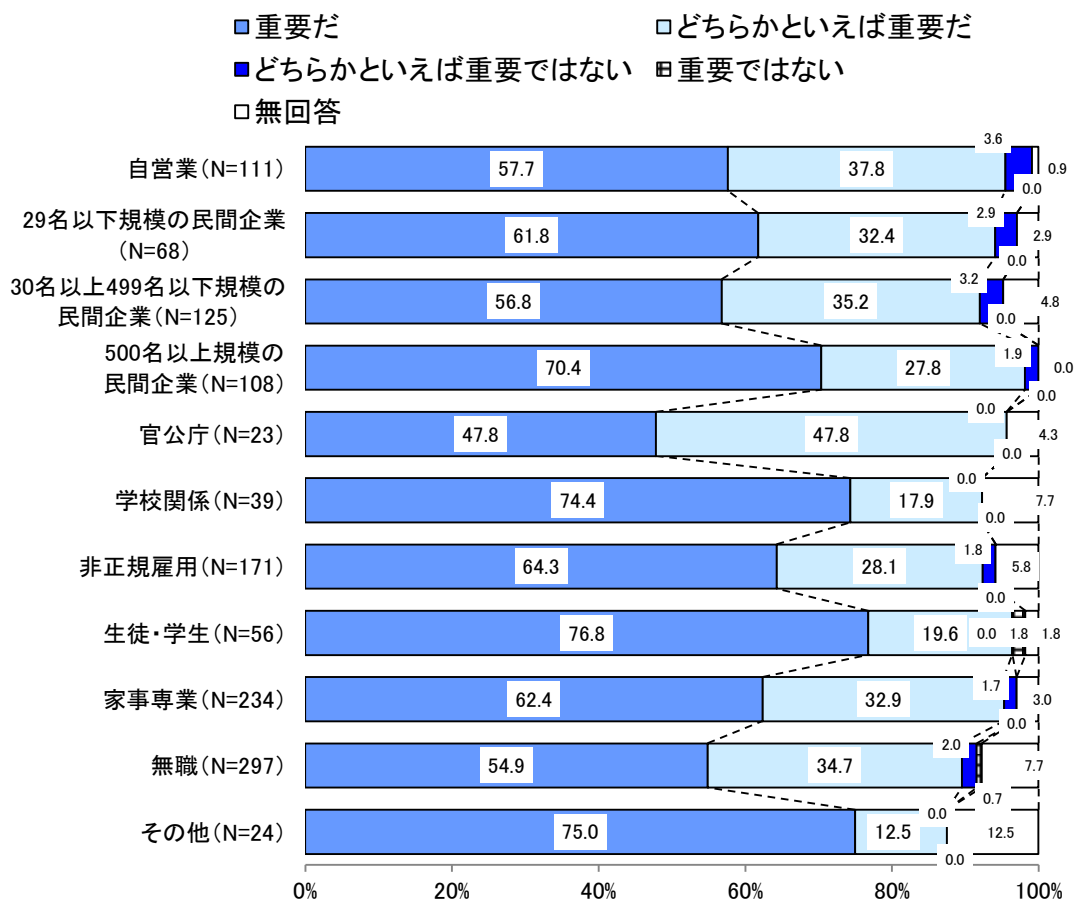
合理的配慮についての考え方は、「重要だ」が 60.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば重要だ」が 31.9%となっている。「どちらかといえば重要ではない」は 2.1%、「重要ではない」は 0.2%で、非常に低くなっている。(図表 6-1)

【図表 6-1-1 年齢別 合理的配慮についての考え方】



合理的配慮についての考え方を年齢別でみると、「重要だ」は20歳代以下では7割台、30歳代～50歳代では6割台、60歳代以上では5割台となっている。(図表 6-1-1)

【図表 6-1-2 職業別 合理的配慮についての考え方】

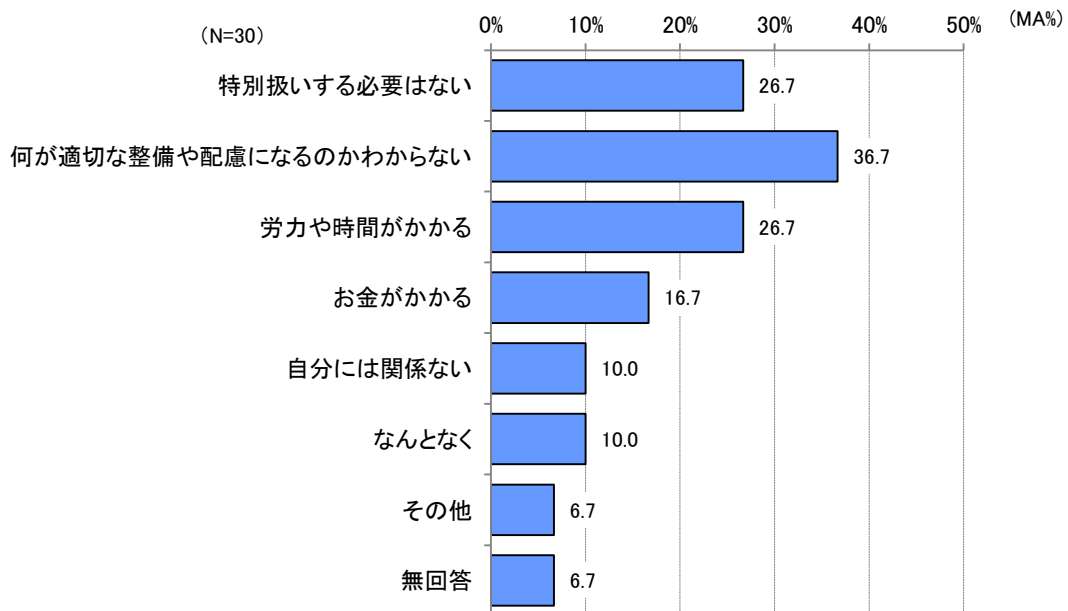


合理的配慮についての考え方を職業別でみると、「重要だ」は官公庁を除く職業では過半数を占めているが、官公庁では47.8%で、それ以外の職業に比べて低くなっている。(図表 6-1-2)

(2) 合理的配慮は重要でないと考える理由

問 25 問 24 で、「3. どちらかといえば重要ではない」「4. 重要ではない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

【図表 6-2 合理的配慮は重要でないと考える理由】

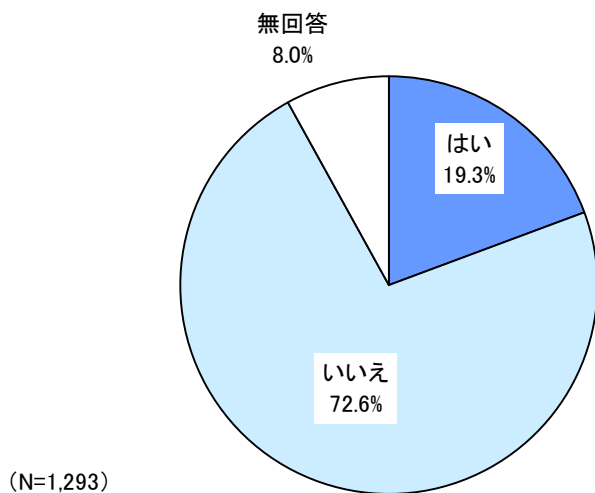


合理的配慮は重要でないと考える理由については、「何が適切な整備や配慮になるのかわからない」が 36.7%で最も高く、次いで「特別扱いする必要はない」と「労力や時間がかかる」が 26.7%、「お金がかかる」が 16.7%となっている。(図表 6-2)

(3) 障害がある場合に日本で安心して暮らせるか

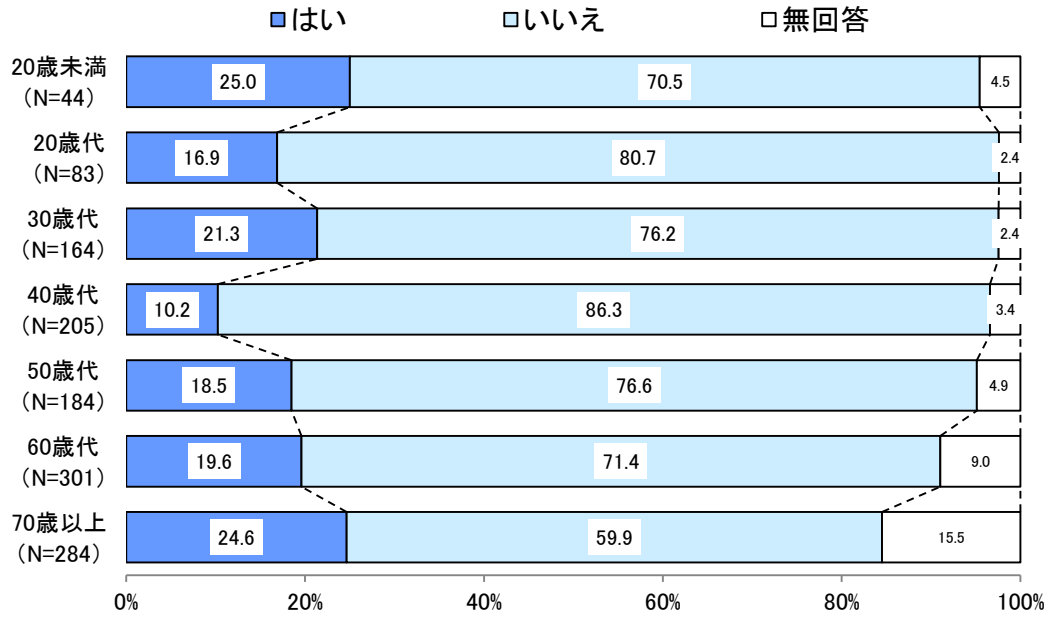
問 26 全ての方にお聞きします。あなたにもし障害がある場合、今の日本で安心して暮らせると思いますか。障害がある方は、今の状況をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

【図表 6-3 障害がある場合に日本で安心して暮らせるか】



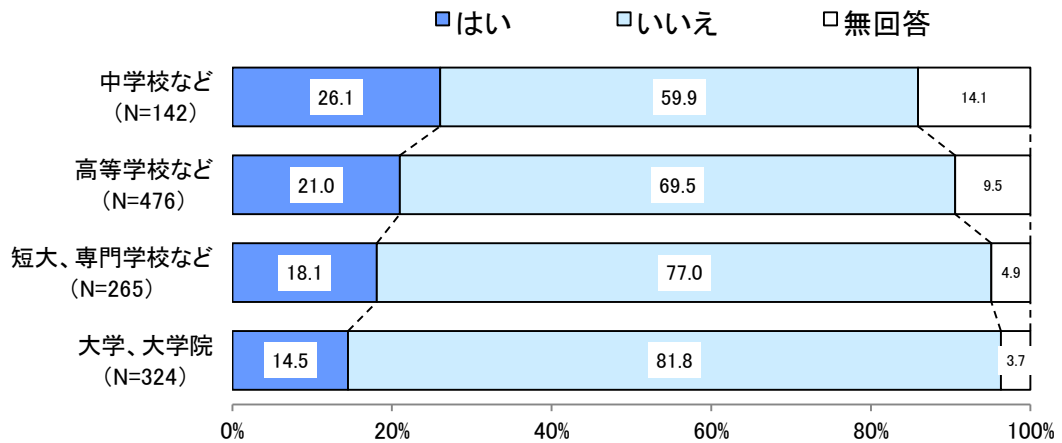
障害がある場合に日本で安心して暮らせるかについては、「はい」が 19.3%、「いいえ」が 72.6%となっている。(図表 6-3)

【図表 6-3-1 年齢別 障害がある場合に日本で安心して暮らせるか】



障害がある場合に日本で安心して暮らせるかを年齢別でみると、「いいえ」は40歳代が86.3%で最も高く、次いで20歳代が80.7%、50歳代が76.6%となっている。(図表 6-3-1)

【図表 6-3-2 最終学歴別 障害がある場合に日本で安心して暮らせるか】

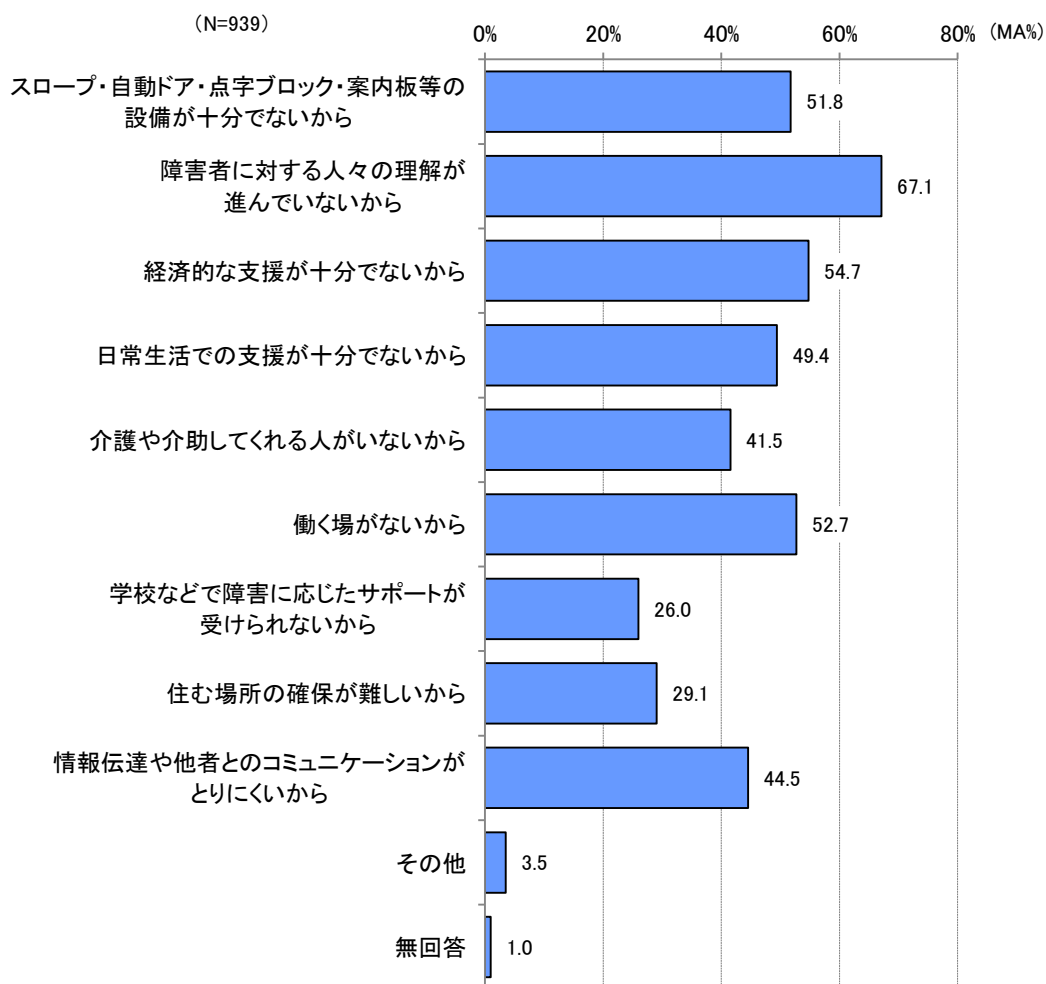


障害がある場合に日本で安心して暮らせるかを最終学歴別でみると、高学歴になるにつれて「いいえ」が高くなっている。(図表 6-3-2)

(4) 障害がある場合に日本で安心して暮らせないと思う理由

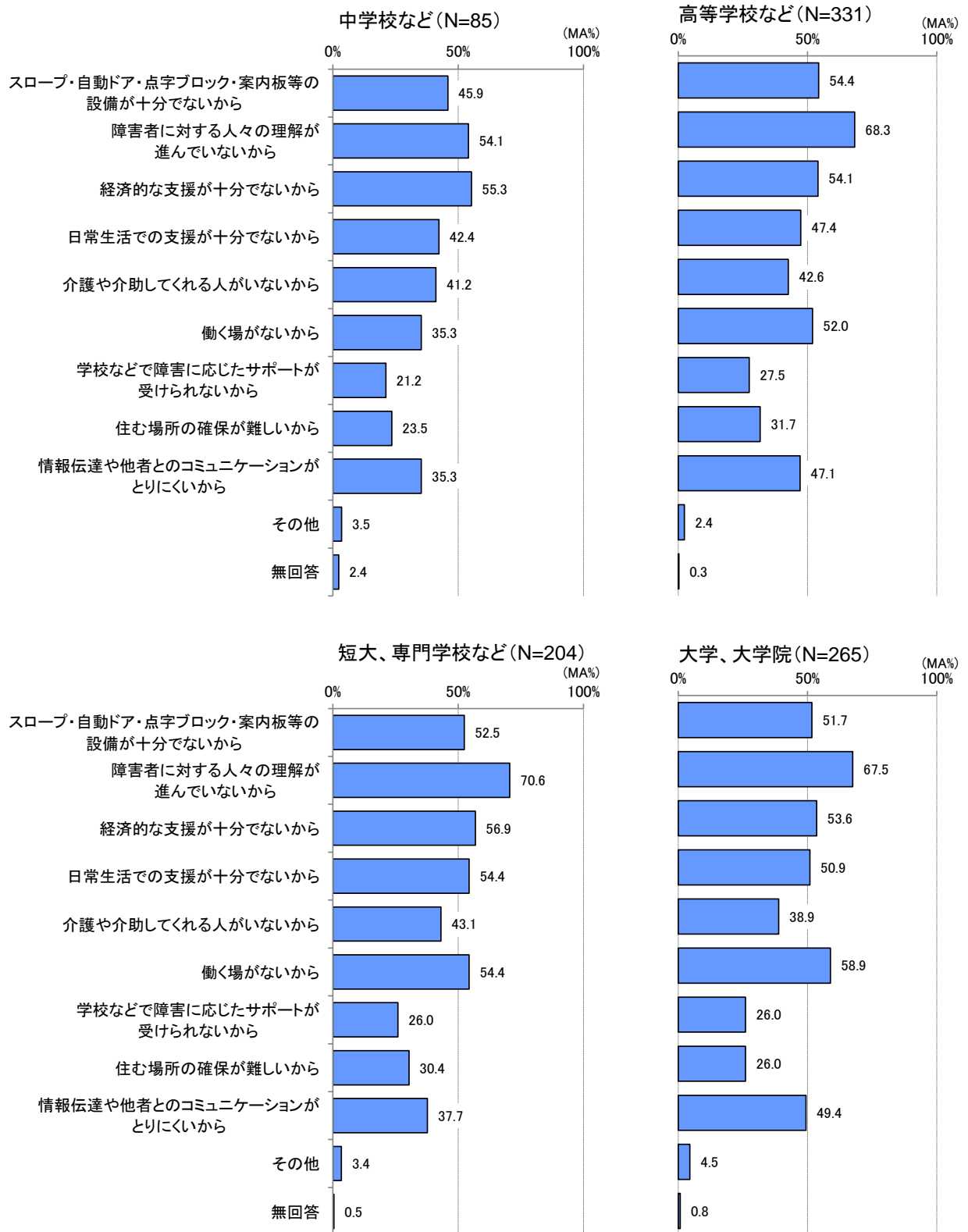
問 27 問 26 で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。
そう思う理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

【図表 6-4 障害がある場合に日本で安心して暮らせないと思う理由】



障害がある場合に日本で安心して暮らせないと思う理由については、「障害者に対する人々の理解が進んでいないから」が 67.1% で最も高く、次いで「経済的な支援が十分でないから」が 54.7%、「働く場がないから」が 52.7% となっている。(図表 6-4)

【図表 6-4-1 最終学歴別 障害がある場合に日本で安心して暮らせないと思う理由】



障害がある場合に日本で安心して暮らせないと思う理由を最終学歴別で見ると、いずれの学歴でも「障害者に対する人々の理解が進んでいないから」が最も高くなっている。「働く場がないから」は高学歴になるにつれて高くなっている。(図表 6-4-1)